

# むゆいげ

113号  
No.1113

2016(平成28)年  
8月1日

びびらしの声

ああ今年も  
びびらしが鳴き出した

びびらしの声は  
答として戦争で死んだ  
二人のあんなちゃんの声だ  
そいで

二人のあんなちゃんの名を  
死ぬまで呼びつづけていた  
悲しい母の声だ  
そいでまた

二人のあんなちゃんはいは  
ひともふねが  
だまって死んでいった  
たびびしと父の声だ

ああ今年も  
びびらしが鳴き出した

みつを

相田みつを美術館  
オリジナルカレンダーより頂きました

発行者:高槻市氷室町2-19-30  
浄土真宗本願寺派

## 萬徳寺

電話(072)696-0666  
FAX(072)692-0769

↓スマホからでも見れます

<http://mantokuji.net>

# 彼或の便り

忘

れられない言葉があります。それはあるお葬儀でのこと。祖母を亡くした18歳の男の子が、弔辞ちようじでこんな話しをしてくれました。

『おばあちゃんの具合が悪いことは、随分前から知っていました。

母は僕に「おばあちゃん、具合悪いよね」と何度も言っていたからです。おそらく、母はおばあちゃんのいる故郷に一緒に帰って欲しかったのだと思います。そうだと知っていたのに、僕は「ふーん、そう。ふーん、そう」という一言で聞き流していたのです。でもこうしておばあちゃんが亡くなり、その手に触れてみると、僕は涙が止まらなくなりました。こんなことなら何故今まで帰ってこなかったのか、今になって後悔がやみません』。彼は祖母の手の冷

たさに触れたときに、今まで抱かれていた温ぬくもりに出逢ったのです。

私たちは失ってみて初めて温もりを知るといふことがあります。法話をお聴聞すると、阿弥陀さまのお慈の心に抱かれていると聞きますが、私たちは「そんなものありはしない」と否定してかかります。でもそれは、失ったことがないから気づいてないだけかもしれません。

「おかあさん」(作詞・西條八十 作曲・中山晋平)という歌があります。

おかあさん　おかあさん

おかあさんてば　おかあさん

なんにもご用はないけれど

なんだか呼びたい　おかあさん



なぜ子どもは用もないのに「おかあさん」と親の名を呼ぶのでしょうか。それはこの言葉の響きの中に親に抱かれたぬくもりを感じるからです。

今、阿弥陀さまは「ナモアマミダブツ」という声の姿の仏さまになってくださいました。姿・形あるものは、壊れもするし、離れもします。しかし声であれば、私が一声称えるところにいつもあらわれてくださいます。我が口からこぼれ出る「ナモアマミダブツ」の響きの中に阿弥陀さまに抱かれたぬくもりを味わいたいものです。

※仏教青年連盟指導講師

舟川智也師のご法話より頂戴しました。



6月23日から24日にかけて、本願寺に念仏奉仕団に行ってきました。  
島上西組 仏教婦人会、総勢99名の参加のうち、  
萬徳寺仏教婦人会からは15名参加してくださいました。  
本願寺の清掃奉仕を通して、親鸞聖人のみ教えにふれる尊いご縁でした。



6月26日はこの季節の恒例行事、  
第16回 人生講座が開かれました。



## 夏季・お経の 練習会のご案内

◎八月二十八日(日)

午後三時より

午後五時まで

場所 萬徳寺 本堂

◆「正信念仏偈」を練習いたします。

◆今年も暑い中での練習ですが、本堂は涼しいですよ。門信徒と皆さま、どうぞお誘い合わせの上、ご参加下さい。心よりお待ちしております。



## 住職の ひとり言



◆今年は、7月初旬より異常気象のため、豪雨が連続して九州を襲い熊本、鹿児島、長崎にゲリラ豪雨の甚大な被害をもたらしました。

◆8月、うだるような暑さの中、蝉しぐれが喧しくなりますとお盆の季節を迎えます。歳を重ねてきますと、短いのちを精一杯鳴く蝉の声にも味わい深く、しみじみと聞いています。「ただけば すべて  
の喚び声 夏座敷」。(蝉の声も阿弥陀さまの『ここにおるぞ』と喚んでくださるお喚び声とお味わいたします)。

◆6月26日は、大阪教区津村別院の教務所長、熊谷正明先生をお迎えして毎年恒例の第16回『人生講座』を開催いたしました。当日は少々蒸した中、門信徒・地域、また遠方の大阪、三重から大勢の方々がお参りくださいました。誠にありがたいことです。先生のご話のあと、サクソフォン演奏!! 昭和の演歌を軽快に演奏していただき、本堂に響き渡る大きなサクソフォン音色に皆さんはビックリ! 手拍子も出て、まるで大カラオケ会場になっていました。明るい熊谷先生のワンマンショーになったような雰囲気になりました。皆さんのお顔は笑顔で溢れ、私たちに明日からの明るく生きていく活力をいただいた楽しい一時でした。

個人情報により非表示にさせていただきます。

お浄土に還ら

れた方々の娑婆しやばでのご苦勞が偲しのげられます。お家族、ご縁のある方にとつ



## 私たち門信徒の お盆の送りかたとは

お念仏を喜び日暮らしをされた諸仏(祖父、祖母などの先祖)の後ろ姿を偲ぶこと。また私を支えてくださった方々や、さまざまな恩恵に思いを馳せることが大切です。そして私もまた祖父、祖母、先祖の「いのち、続いて行く」  
「いのち、であることに目覚める大切な季節ときだろうと思います。親鸞聖人もまた「浄土にてかならずかならずまちまいらせ候ふ」  
聖人も、皆さまをお浄土で待っていただいておりますよ。

ときは夏……………。

一度しかない今年の夏……………。

この季節こそ、自らを謙虚にかえりみて、  
お念仏をよろこばせて頂く、お盆の一時です。

て、悲しみの深さだけ手を合わせる手のひらに力がこもります。今が一番お念仏の心がしみ通る一時です。なんまんだぶ なんまんだぶ  
◆6月26日の『人生講座』で、熊本大震災の被災者支援金の募金をお願いしてりましたが、皆さまから36,200円をいただきました。本願寺を通じて熊本被災地復興支援に活用させていただきます。

お心ご支援誠に有り難うございました。